

いしかわ移動知事室タウンミーティング(令和 8 年9月3日) 開催結果

令和 8 年9月3日(木)、小松市民センターにおいて、「石川県の観光施策の取組と課題～南加賀地域の誘客促進に向けて～」をテーマにタウンミーティングを開催しました。当日は 39名の皆様にご参加いただき、知事と直接意見交換を行いました。その概要をご報告します。

1. 開催概要

- ・日時: 令和 8 年9月3日(木) 17 時 30 分～18時50 分
- ・場所: 小松市民センター 1階 小ホール
- ・テーマ: 石川県の観光施策の取組と課題～南加賀地域の誘客促進に向けて～
- ・参加人数: 39名
- ・出席者: 石川県知事 山野 之義
小松市長 宮橋 勝栄
加賀市長 山田 利明
能美市長 井出 敏朗
川北町長 前 哲雄 (代理:副町長 田西 秀司)

2. 次第

- (1)開会
- (2)知事挨拶
- (3)石川県の観光施策の取組と課題について
- (4)意見交換
- (5)閉会

3. 意見交換(主な意見と知事の回答)

●参加者 A

空港前にある航空プラザについて、F35 に代わり、退役する F15 の展示を、航空プラザの増築も踏まえてご検討いただければ、全国から多くの方が見に来られると思われしますので、そのような対策をお願いしたいと思います。また、小松基地についてどのようなお考えをお持ちか、あわせてお聞かせいただければ幸いです。

■山野知事

まず小松基地についてですが、私は金沢市長を 11 年間務めておりましたが、自分で申し上げるのも恐縮ですが、最も自衛隊に理解のある市長であったと思っています。ご案内いただいたものにはすべて出席させていただきました。金沢市長でしたので、どうしても野田の駐屯地に関わる機会が多くなりましたが、小松基地についてもご案内いただいたものには出席させていただいております。日本人の一人として、自衛隊・防衛省の皆さんに心から感謝申し上げますし、できる限りご恩返しをしなければならないという強い思いを持っています。

前段のご提案についてですが、航空プラザは県の所管ではありますが、何を展示するかとなると、防衛

省との協議が必要な部分もありますので、慎重に話し合いを進めてまいりたいと思います。

●参加者 B

まず、人流データを活用することについてですが、私どもとしては、現場の声をもっと吸い上げていただきたいと思っています。新幹線が開通して、商売が厳しくなったと感じています。開通してすぐに危機感を覚えましたが、市の観光課に伝えても、「人流は増えている」「駅前に人が増えている」と言われます。最近も粟津温泉が厳しいと申し上げると、「スマートフォンを持った人流が増えている」と言われます。しかし、それは経済とはまた別の話で、どれだけ多くの人に来て、どれだけお金を使っただけのかが重要です。

新幹線が開通して鉄道ファンが増え、鉄道だけを見に来て経済は動きません。粟津温泉の総湯や足湯に入っていただくことはありがたいことですが、それだけではお金は落ちません。那谷寺へ向かう途中に人が通って人流が生まれても、経済は動きません。そこで商売をしている私どもの声が、どうすれば届くのが課題です。

行政の方が何かをすれば成功と発表し、マスコミの方も大変賑わっていると報じるのはやむを得ない面もありますが、実態は本当に厳しいのです。加賀温泉の状況についても、新聞に取り上げられたニューグランドホテル金沢の件でも、地元資本で長年商売をしてきた方々が大変苦戦しています。これは人流データの数字には表れない部分です。私も今、息子を能登屋に戻すべきかどうか非常に悩んでいます。戻ってきてほしいと思っていますが、チェーン店や大資本が金沢の観光客を取り込んでしまえば、後継者がいなくなり、若者がどんどん出ていきます。地域で経済が回るのか、お金が地域に落ちるのか、地域産業が成り立つのか。インバウンドが増えて加賀に来て、大型リゾートに価格競争を仕掛けられれば、私どもには全く恩恵がありません。

本来の加賀温泉郷は、まず地元の方に愛していただき、地元の皆さんが何度も温泉に来て楽しんでいただくことが原点です。そこから関西・東海のお客様に来ていただき、今は海外からも来ていただいています。しかし旅行業者だけに頼ると、結局コミッションの高いところへ流れ、価格競争になってしまいます。ですから、データに頼るのではなく、データの奥にある声を聞いていただきたいと思います。どうかよろしくお願いします。

■山野知事

ありがとうございます。データに頼るのではなく、その奥の声を聞くべきというご意見は、まったくその通りだと思っています。データを分析する力が不足していれば、表面的なものしか見えなくなってしまいます。先ほど、データとともにアンケートについても申し上げました。直接記入していただくアンケートや、QRコードを読み取って入力していただくアンケート、そういったアンケートとデータをきちんと分析しながら政策を立案していかなければならないと思っていますし、これからはもしっかり取り組んでまいりたいと思います。

「現場の声を聞いてほしい」とおっしゃっていただきました。まさに今日がその場でもあります。改めてそのような時間も設けますので、私がお伺いするか、知事室にお越しいただくか、いずれかの形で対応させていただきます。ただ、私一人で聞いて終わってしまうだけでは意味がありませんので、形にしていくなめには、所管の職員にも同席していただき、場合によっては小松市の所管職員にも同席していただいて、お一人だけではなく、そのエリアの方々と一緒に意見交換をさせていただければと思っています。そのような声と、人流データと、実際にお越しいただいた方のアンケートをもとに政策を作っていくことが大切だと思っています。大変良いご意見をいただきました。

温泉であれ、食事処であれ、遊び場であれ、まずは地元の方に愛されてこそです。地元の方に楽しんでいただけてこそ、金沢でも能登でも加賀でも、石川県民の方に兼六園に来ていただき、花見を楽しんでい

ただき、花見団子を食べておいしいと感じていただいてこそ、東京や大阪、九州の方が「そんなに兼六園の桜が美しいなら、花見団子がおいしいなら行ってみよう」と思ってください。それが観光だと思っています。まずは地元の方に愛されるよう、十分にご努力されていることと思いますが、小松市の当局とも連携しながら、まずは小松市民の方、石川県民の方に来て楽しんでいただくために何ができるか、そこから話し合い、何か手を打っていただければと思います。ご意見ありがとうございます。

●参加者 C

加賀市の三温泉では、喫緊の課題として、本日の資料にもありましたが、インバウンドの比率が現在 4～5%となっています。この数値をいかに引き上げるかが最大の課題と考えています。そこで、空の玄関口である小松空港から加賀市への二次交通をしっかりと整備していただきたいと思います。あわせて、兼六園近くの兼六駐車場から加賀市への直行便を検討していただけないでしょうか。さらに、小松空港を經由して加賀市三温泉を巡る送迎便についても、ぜひご検討いただきたいと思います。

欲を申し上げれば、加賀市を力強くアピールできるラッピングバスを導入し、国際線の到着に合わせて大きな荷物を収納できるバス、国内線に合わせたバスというようにタイプを分けて、しっかりとした二次交通を整備していただきたいと考えています。いかがでしょうか。

■山道企画振興部交通対策監

現状につきましては、加賀温泉駅行きのバスや金沢行きのバスなど、二次交通はご用意させていただいている状況です。今いただいたご要望は、温泉地を巡るバスについてかと思いますが、現状はそれぞれの温泉地やアクセス先ごとへのバスを運行している状況です。

■山野知事

今のご提案は、現状の取り組みを大切にしながらも、国際線の到着に合わせて加賀温泉郷を巡るラッピングバスを導入してほしいというご提案だったと理解しています。テーマの性質上、採算性だけを求めるものではないと思いますが、具体的にどれだけのニーズがあるかをもう少し調査させていただければと思います。ニーズ調査を行った上で、研究させていただきたく、宿題として持ち帰らせていただければと思います。

●参加者 D

加賀市の観光について、一市民として発言させていただきます。加賀市は 300 平方キロメートルと県内でも 6 番目程度の面積ですが、海・山・里とすべてが揃っています。昨年、市長が選挙に出られてから、加賀市の市民が市政に大変関心を持つようになり、さまざまなグループが生まれています。

私の提案ですが、ホテルや旅館の方々には難しい面もあるかもしれませんが、長期滞在で体験・参加していただく観光ができればと思っています。外国の方はゆっくりと過ごされますし、日本人も一泊二日・二泊三日ではなく、もっとゆっくり滞在していただく。観光客の方も幸せ、市民も幸せ、そして JAPAN TENT のように自宅に泊まっていだいたり、無限庵をはじめ加賀市にはまだまだ素晴らしい場所がたくさんあります。

市政に関心を持つようになってから、本当にいろいろなことがわかりました。友人が休みのたびに市内を探索して歩き、グループ LINE で発信してくれるおかげで、加賀市に住んでいながら知らなかった場所がたくさんあることに気づきました。そのような場所を観光客の方と一緒に歩いたり体験したりできれば、素晴らしい観光になると思います。

■山野知事

私は市長になる前に市議会議員を15年務めていました。30代の頃、お寺での勉強会に参加したことがあり、湯布院の観光のカリスマと言われる中谷さんがお越しになりました。40～50人ほどの参加者の中で、ある方が質疑応答で「まちづくりを進めていくうえで、どんなことをすればよいですか」と質問されました。すると中谷さんは、「小さくてもいいから、こういう集まりを積極的に続けることだ」とおっしゃいました。その言葉が深く刺さり、当時議員でしたので、なおさらそのような場には積極的に参加しようと思いました。おそらくそれがあったから市長になれたのだと思っています。

今おっしゃっていただいたように、多くの市民の方々が市政に関心を持ち、さまざまな議論をすること、そしてさらに大切なのは、議論した上で行動を起こすことです。ぜひその活動をこれからも続けていただければと思います。

日本人の滞在日数も、データを見ると少しずつ長くなってきています。昔は一泊二日が多かったですが、休暇を取る期間が長くなりつつありますので、二泊・三泊が増えてくると思います。海外の方はすでにそのような傾向が強いので、その魅力を発信していく際に、私ども行政も、観光関係者の方々も、長期滞在を念頭に置いた情報発信をしていただければと思います。

市民の方々がコラボして、「仲間と一緒にこういう場所をご案内できます」とご提案いただければ、きっと少しずつ形になっていきます。私でも、他の首長でも、各市町の所管職員にでも、ぜひご提案ください。なかなか大変かもしれませんが、ぜひ行動に移してください。よろしくお願いします。

●参加者 E

小松市でオープンファクトリーイベント「GEMBA モノヅクリエキスポ」を開催しています。先ほど知事から「体験」についてのお話がありましたが、小松市では石の文化を点ではなく立体的に感じられる体験として、このオープンファクトリーイベントを実施しています。

具体的には、石切り場から始まり、石というコンテンツから九谷焼などの伝統工芸が生まれ、そこから小松製作所のような産業へとつながっていく流れがあります。このコンテキストからコンテンツへと伝わる流れが、すべてものづくりの文脈で体験できるのが、このオープンファクトリーイベントの現場プロジェクトです。

重要なのは、ストーリーとして語るのではなく、ナラティブとして語っていただくこと、つまり語りたくなるような体験になっていることだと思っています。このような文化を背景にしたものづくりが、コンテンツとして非常に強いと考えています。先日も、工場を誇ることを目的とした一般社団法人「Factory Pride Association」から40名ほどが石川県小松市にお越しになり、工場をご覧いただいた翌日に伝統工芸の工房や東酒造などを巡りました。全員が「めちゃくちゃ良かった、すごく楽しかった、この体験を語りたい」とおっしゃっていただきました。語りたくなる体験というコンテンツが、すでに小松市には存在しています。

これはご質問というよりご依頼、お願いになりますが、オープンファクトリーイベントは全国に90ほどありますが、その一つとして認識されているにとどまり、まだまだ認知が弱い状況です。認知拡大という意味で県とタイアップさせていただいたり、観光関連のイベントの際に私が実行委員長としてお話しさせていただく機会をいただければ、より多くの方に伝統工芸から産業へとつながる文化の体験、語りたくなるコンテンツをお届けできていると思っています。

もう一点、一次情報の検索がAIに移行しつつあると感じています。AIの一次情報検索に引っかかるようなPRを進めたいと考えており、県からの後押しがあれば信頼性の高いドメインへの掲載も可能になりますので、そういった面も含めて一緒にPRしていければと思っています。

■山野知事

ありがとうございます。お話を聞いているだけで大変魅力的だと感じましたが、私の勉強不足で、これま

での活動を存じ上げませんでした。ぜひ改めて時間を取って、市長を通じてでも構いませんので、詳しく教えていただければと思います。市とはすでに連携されているとのことですので、県としてどのような関わり方ができるか、また私個人としてどのような関わり方ができるか、一緒に議論させていただければと思います。

2点目についてですが、一次情報は非常に重要になってきます。膨大なデータを人間だけで分析するには限界がありますし、正確な解釈ができるかどうかも課題です。AIの力を借りることが必要になってくると思いますので、そのことについても改めて意見交換させていただければと思います。

■参加者 F

先ほど市長から能美の観光資源についてお話がありましたが、私からは九谷焼に絞って、市が取り組んでいる内容と課題について紹介しながら、ご意見をお聞きしたいと思います。主な取り組みとして、現在三つあります。

一つ目は体験型観光拠点の整備です。知事もお越しになったことがある九谷焼陶芸村を中心に、見る・買うだけでなく、絵付けや作陶といった体験型コンテンツを提供しています。また、九谷焼美術館、五彩館、浅蔵五十吉記念館、体験館を通じて、歴史や芸術的価値の発信と親しみやすさを両立させた展開をしています。

二つ目は九谷茶碗まつりです。毎年多くの観光客を集める大規模なイベントを開催し、産地ならではの直接販売や賑わいを創出しています。

三つ目は産業・ライフスタイルとの融合です。日常使いできる現代的なデザインの開発支援や、カフェ・飲食店での九谷焼の器の活用など、観光客が日常に持ち帰りやすい魅力ある商品の提案を行っています。

一方で、課題も三点あります。

一つ目は後継者不足と生産基盤の衰退です。職人の高齢化と後継者不足により、技術の継承や生産体制の維持が難しくなっており、観光コンテンツの根幹であるものづくりの現場の継続性が懸念されています。

二つ目は滞在型観光・周遊への展開です。金沢などの主要観光地からのアクセスや市内での滞在時間、温泉や自然への周遊ルートの構築が不十分で、日帰り観光にとどまりやすい現状があります。

三つ目はインバウンド向けの体験型付加価値の強化です。海外からの観光客に向けた多言語案内や質の高い体験プログラムの提供、単なる安売りではない高付加価値商品のブランディング展開が必要だと考えています。

伝統工芸の後継者不足と観光振興は、一見別の課題のように思えますが、制作現場の価値化、滞在と学びのセット、収益モデルの多角化を組み合わせることで相乗効果が生まれるのではないかと思います。全国の伝統工芸産地での成功事例や、能美市がモデルになり得る取り組みについてご教示いただければ幸いです。

■山野知事

ありがとうございます。前段でご自身がお答えをおっしゃっていただいているように感じました。私も九谷茶碗まつりにお伺いしましたが、今日は少し時間があつたので技術研究所にも立ち寄り、九谷茶碗まつりの際に十分見られなかった部分を改めてじっくりと見学させていただきました。研修生が研修している現場も拝見し、丁寧にご説明もいただきました。後継者となり得る方々を育成されていると同時に、デザイン支援についても講師の方がご支援されていました。

九谷茶碗まつりや卒業制作展をはじめとした販路開拓についても、県・市・研究所が連携して取り組んでいるところです。その効果がなかなか見えないというご指摘だとは思いますが、改めてしっかりと検証し

ながら、改善点があれば改善し、ブラッシュアップしてまいりたいと思っています。

問題意識はまったく同じですし、これまで先人たちが取り組んできた方向性も正しいと思っていますので、引き続きしっかりと取り組んでまいります。ただし、発信の方法については、先ほどのご意見にあった AI の活用なども含め、時代に合わせた工夫が必要だと思っていますので、そこは新たに挑戦してまいりたいと思います。

●参加者 G

木場潟のほとり、木場町で繊維の加工業を営んでいます。観光サービス業とは直接関係ありませんが、30歳の頃から人づくり・まちづくりについて学んできた観点から、南加賀地区のまちづくりについて申し上げたいと思います。

新幹線・飛行機・車の窓からこまつドームが素晴らしい景色として見えます。こまつドームではさまざまな大会やイベントが開催され、大相撲やプロレス、鉄人レースといった素晴らしい大会も行われています。このこまつドームを、観光・MICE・スポーツ・防災・GX を融合した次世代型交流拠点として再生できないかと考えています。

屋根の改修とともに、次世代型ペロブスカイト太陽電池の設置や空調設備の整備を行い、大型イベントやコンサートを年間通じて開催できる施設に再生できれば、小松市だけでなく加賀市・能美市・川北町、そして金沢からも多くの方が訪れると思います。

8号線バイパスの整備により、加賀市・能美市・川北町からも30分圏内でアクセスでき、小松空港・小松駅・インターチェンジからも20～30分圏内に位置しています。北陸新幹線・小松空港・加賀温泉郷と連携することで、南加賀への交流人口を増やし、宿泊・飲食など地域経済への波及効果が期待できると思います。

地域のまちづくりという観点から、山野知事に、県と市、民間が連携した南加賀の新たな観光拠点としてこまつドームの再生をご検討いただければと思います。また、県として防災・GX・MICE の観点から、宮橋小松市長にもお力添えいただければ幸いです。よろしくお願いします。

■山野知事

ありがとうございます。今日の日中、宮橋小松市長をはじめ小松市の幹部の方々と意見交換をした中で、防災庁の外局として防災局の設置が検討されているとお聞きしています。石川県としては、能登半島地震を経験し、空港があり、自衛隊も隣接している小松に防災局を誘致したいと手を挙げているところです。その中で国・県・市・民間が連携してまちを作っていくという問題意識を改めて共有させていただきました。

こまつドームについてのご質問がありましたが、一義的には小松市が対応される事項ですので、宮橋小松市長からお話しいただければと思います。おっしゃっていただいたように、宮橋小松市長のお考えを県としてもしっかりと受け止めながら、一緒にできることは一緒に取り組んでまいりたいと思います。市長、よろしくお願いします。

■宮橋小松市長

こまつドームについてのご質問ですが、おっしゃっていただいたような MICE などの機能は、建設当時もそのような思いで作られた施設だと聞いています。実際に過去の資料を見てもそのようでした。ただ、施設としては30年前のスペックであり、音響も悪く、空調を導入するには現実的でない構造になっています。

最大の課題は、開閉式の屋根が相当傷んでおり、雨漏りが続いている状態であることです。この9月の

議会でも応急処置のための予算を計上していますが、そのような応急処置を繰り返している状況です。市としても現状維持では立ち行かないとして、ここ1～2年で詳細な調査を行いました。その結果、屋根の修復だけで最低60億円かかることがわかりました。空調設備なども含めると100億円を優に超える見込みであり、現状のスペックを維持するためにこれだけの費用をかけることは現実的ではないと考えています。そのため、近い将来、解体を含めた検討を進めたいと思っています。

ただ、こまつドームは市内南部地区のスポーツ・地域コミュニティの拠点となっていますので、その機能を損なうわけにはいきません。解体後にスポーツ拠点や地域コミュニティの拠点として再生することを考えていかなければなりません。

解体だけでも多額の費用がかかる中で、次の計画が決まらないまま解体するわけにもいきませんので、市でしっかりと議論しながら、近い将来の方向性を出してまいりたいと思っています。

●参加者 H

地域が求める「人手が欲しい」というニーズと、観光客が求める「地域の日常を体験したい」というニーズをつなぐ観光の提案をしたいと思います。例えば、農作業、柿の葉寿司などの郷土料理作り、祭りの TENT 張り、模擬店での焼き鳥焼き、町の大掃除、空き地の草刈り、雪かきなど、地域が人手を必要とするときに観光客にも一緒に参加してもらおう。さらに、空き家などを活用して、作業の後に地域の人と観光客と一緒に食事をして語らう交流ができれば、地域の日常そのものを体験する旅になると思います。

受け入れる地域側と観光客側の双方にニーズがあるかという点については、最近では若者を中心に「おてつたび」やリゾートバイトなど、旅先で働きながら地域と交流する機会も増えており、一定のニーズはあるのではないのでしょうか。だからこそ、いきなり大きな事業にするのではなく、まずは小さなモデル事業から始めて、双方にとって本当に価値があるかどうかをしっかりと検証すべきだと思います。

この観光は双方に大きなメリットがあります。地域にとっては人手不足の解消や活力につながり、観光客にとっては社会貢献、わくわくする思い出、自己成長、そして新しい人とのつながりというお土産が得られます。地域と観光客がつながり、互いに新しい発見をする、そんな「未知との遭遇と交流」の新しい観光を、みんなでつながってぜひ始めてみませんか。

■山野知事

観光には「非日常を体験する」という考え方があります。ディズニーランドや、いしかわ動物園、手取フィッシュランドに行くことが、一つの立派な観光です。もう一つの観光は、自分たちの日常とは異なる日常を体験するということだと思っています。先ほど能登屋の方がおっしゃっていたことがまさにそれで、地元の方々の日常がまず大事であり、その日常を東京・大阪・九州・北海道の方が体験しに来てくださる観光もあります。

前者を「非日常」とすれば、今のご提案はいわば「異日常」、自分たちの日常とは違う他の方の日常を体験したいということだと思っています。受け入れ側のニーズは間違いなくあると思いますが、それに呼応してくださる方がどれだけいらっしゃるか、まずはニーズ調査から始めさせていただければと思います。どのような手法が適切かも含めて、少し預らせていただければと思います。素晴らしいご提案をありがとうございます。

●参加者 I

首長の皆様もいらっしゃいますので、インバウンドについてご提案申し上げます。小松の施設で20～30年にわたり何十万人ものインバウンドをお迎えしてきました。現在、インバウンドは団体から個人旅行へと移行しています。金沢市にインバウンドが集中しているのは、文化や施設が素晴らしいことに加え、コンパ

クトで交通の便が良いことが大きな理由です。

地方にインバウンドをさらに呼び込むには、交通の整備が最も効果的だと思います。現在、市町村単位で公共バスが運行されていますが、部分的に市町村が協力ができれば、個人旅行化するインバウンドに対して非常に有効な手段になると思います。

インバウンド誘致では、これまで飛行機やチャーター機の誘致に民間も一緒に商談会へ参加するなど取り組んできましたが、今は団体旅行から個人旅行へと移行し、「アジア大移動」という動きも聞かれます。能登や加賀温泉郷の皆さんもいらっしゃいますので、まず交通の整備を一つご検討いただければと思います。いろいろな省庁もあり難しいかと思いますが、小松市・加賀市・能美市・川北町の部分部分でつなげられるバスはあると思いますので、よろしくお願いします。

■山野知事

いわゆる行政用語で「二次交通」と呼んでいるものですが、金沢駅や加賀温泉駅に到着した後、目的地へどう移動するかという二次交通の整備が重要というご提案だと理解しています。

例えば小松市では、現在は一時停止中ですが、小松空港と小松駅を結ぶ自動運転の取り組みが進められていました。独自のライドシェアにも取り組んでいらっしゃいます。コミュニティバスについても、近隣の市や町の理解を得て乗り入れを行っているところもあります。こうした取り組みをより充実させていくとともに、路線バスが利用しにくい地域については工夫が必要だと思っています。

問題提起はしっかり受け止めました。市長・町長の方で何かあればお願いします。

■山田加賀市長

加賀市でも公共交通は大きな課題です。人口が分散しているエリアでは路線バスの維持が難しいため、Uber や乗り合いタクシーなどを活用した面的な交通網の充実を進めてまいりたいと思っています。

●参加者 J

能美市と富山県射水市の太閤山ランドで、アスレチック施設・バーベキュー場・ドッグランを運営しています。先ほど井出能美市長からお話がありましたが、先日、台湾への観光プロモーションに私もメンバーとして参加させていただきました。その際に台湾の旅行業界の会長とお話しする機会があり、石川県に大変興味を持っていただき、ぜひ石川県への学習旅行を実現したいとお話でした。これは能美市だけで対応できる問題ではないと思いますので、今後、石川県として民間と行政がうまく連携しながら、そのような誘致に取り組んでいただけるかどうかお聞きしたいと思います。

■山野知事

金沢市長時代の話になりますが、台南市に八田興一技師ゆかりの地として訪問し、金沢市観光協会と台南市観光協会の間で協定を締結しました。その後、チャーター便を飛ばしていただき、こちらからも訪問するなど交流を重ねてまいりました。今回、高雄便が就航したことで、わざわざチャーター便を飛ばさなくても高雄便を有効に活用できるようになりました。高雄便の就航に合わせて、台南の旅行関係者の方々に石川県にお越しいただき、さまざまな場所をご案内しています。その方々が帰国後に情報発信してくださることを期待しており、そのような地道な取り組みを続けてまいりたいと思います。

能美市単独ではなくという趣旨だと思いますので、改めて井出能美市長から詳しくお話をお聞きしながら、能美市や近隣の市町、県が協力してどのようなことができるか検討し、せっかく就航した高雄便を有効に活用してまいりたいと思います。

●参加者 K

川北町には観光資源がほとんどない中で、唯一人を呼べるのが川北花火です。今年は日本旅行を通じて関西・関東の旅行会社にお越しいただいています。今後も多くの旅行会社にPRしていただきたいと思っています。

また、中京圏からの誘客が非常に弱いと感じています。特急列車サンダーバードが大阪から金沢まで乗り入れるという話もありますが、特急列車しらさぎを通じて中京圏からの誘客を強化し、PRしていただける機会がないかどうか、お願いしたいと思っています。

■山野知事

先ほど申し上げましたが、中京圏・関西圏からの来訪者数はデータを見ても減少しているところです。一方で、車で来られる方が多いというデータ分析もあり、先ほど申し上げた手立てを講じているところです。JR や NEXCO とも相談しながら、現在この資料にある取り組みを進めていますが、より有効な手立てを探りながら発信を強化してまいりたいと思います。名古屋をはじめとする大都市圏に対しては、観光セミナーなども含めた取り組みが必要だと思っています。現時点では具体的なスケジュールに落とし込んでいるわけではありませんが、中京圏への対応は大変重要なテーマですので、具体的な形で取り組んでまいりたいと思います。